

IV 事業の状況

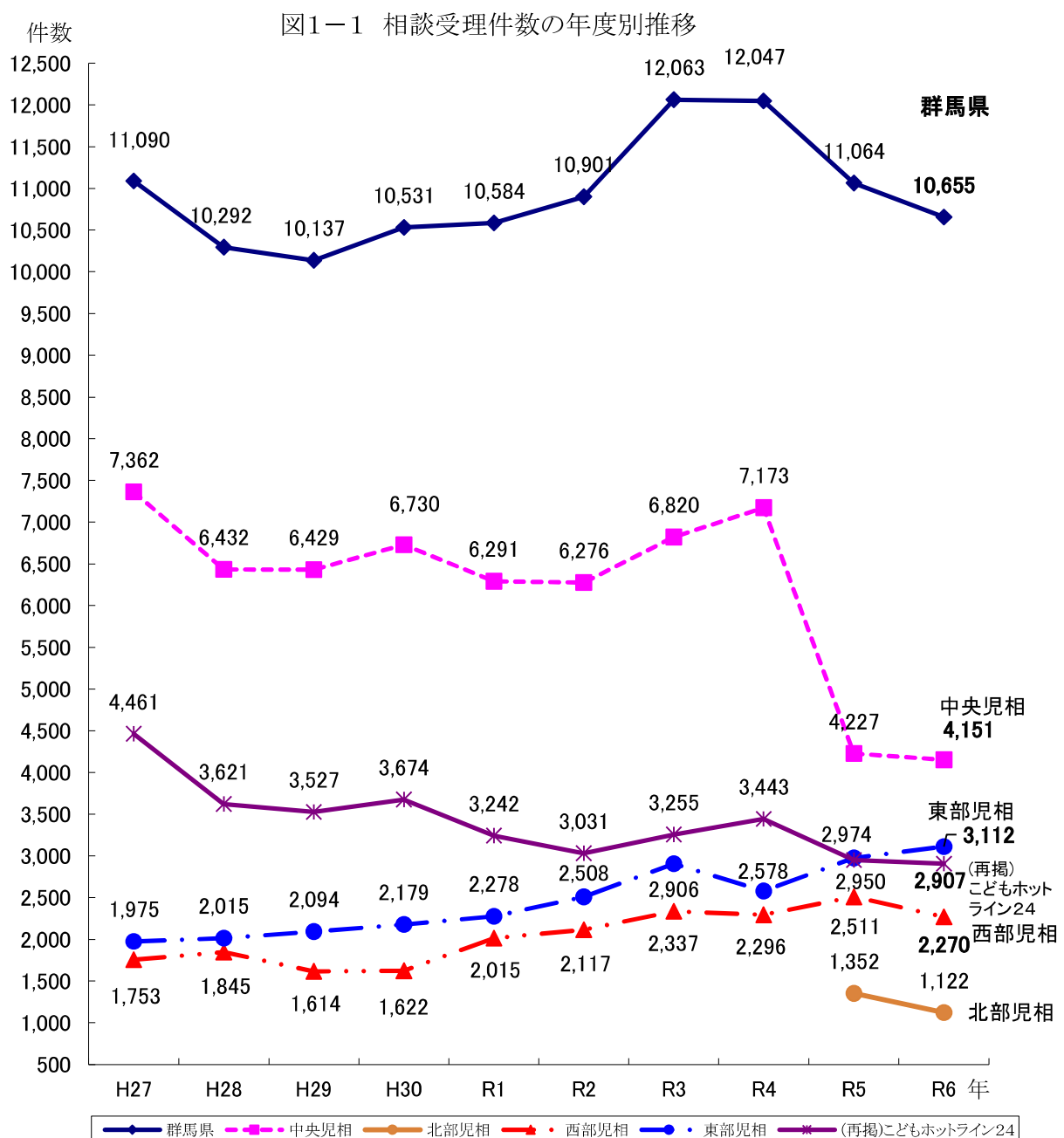
1 相談受付の状況

(1) 全体概況

令和6年度の群馬県全体における相談受理件数は11,655件で、対前年度比409件(4%)の減少となっている。

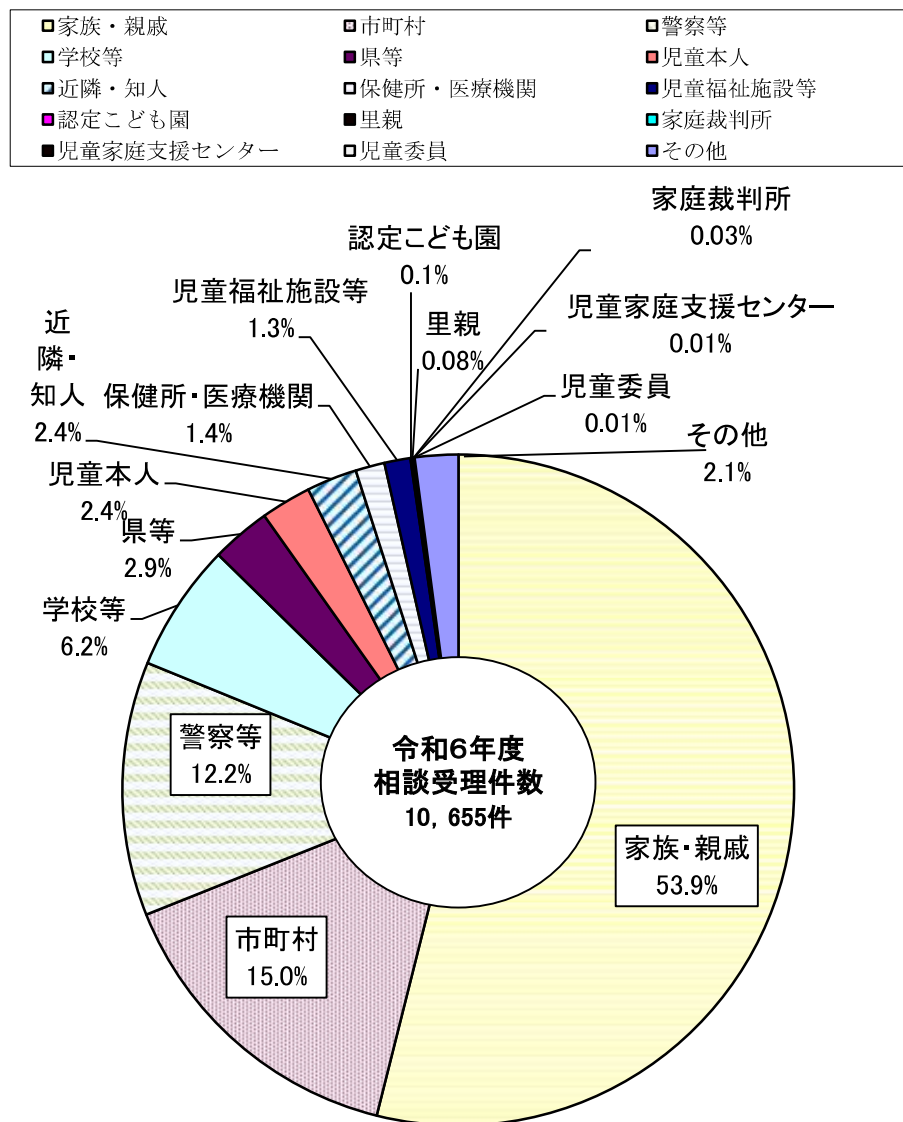
また、最近10年間の相談受理件数の推移は図1-1のとおりである。総件数は平成16年度に大きく増加しそれ以降、高い水準で推移している。さらに、経路別受理件数の内訳は、図1-2のとおりであり、家族・親戚からが約半数を占めている。この経路は障害相談や育成相談に関するものが多い。

[統計資料:表1、2参照]



(注)こどもホットラインでの相談受付数は、令和4年までは中央児相、令和5年は各児相で計上している。

図1-2 経路別受理件数



	家族・親戚	市町村	警察等	学校等	県等	児童本人	近隣・知人	保健所・医療機関
中央児相	2,555	442	397	228	98	135	93	57
北部児相	638	178	136	49	36	11	15	20
西部児相	991	390	382	134	77	83	84	36
東部児相	1,560	593	389	246	94	29	67	35
群馬県	5,744	1,603	1,304	657	305	258	259	148

	児童福祉施設等	認定こども園	里親	家庭裁判所	児童家庭支援センター	児童委員	その他	計
中央児相	75	1	3	2			65	4,151
北部児相	6		2	1			30	1,122
西部児相	23	5	3		1		61	2,270
東部児相	30	1	1			1	66	3,112
群馬県	134	7	9	3	1	1	222	10,655

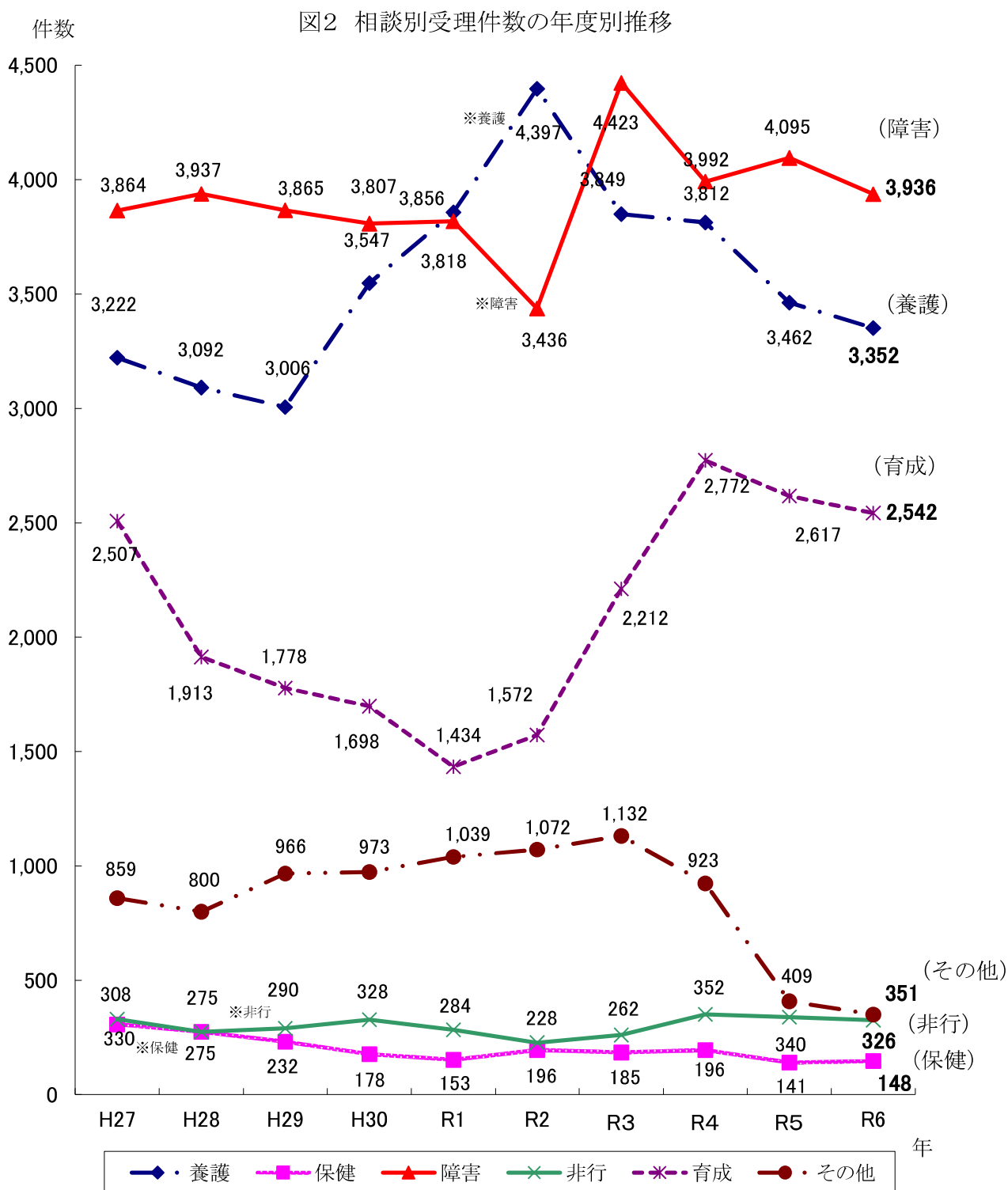
(2) 相談別受理状況

最近10年間の相談別受理件数の推移(図2)は次のとおりである。

令和6年度は、前年度から約4%相談件数が減少した。相談種別ごとの増減について、保健相談の増加率は約5%であった。

一方、障害相談を除いた全ての種別については、前年度と比べ相談件数が減少となった。

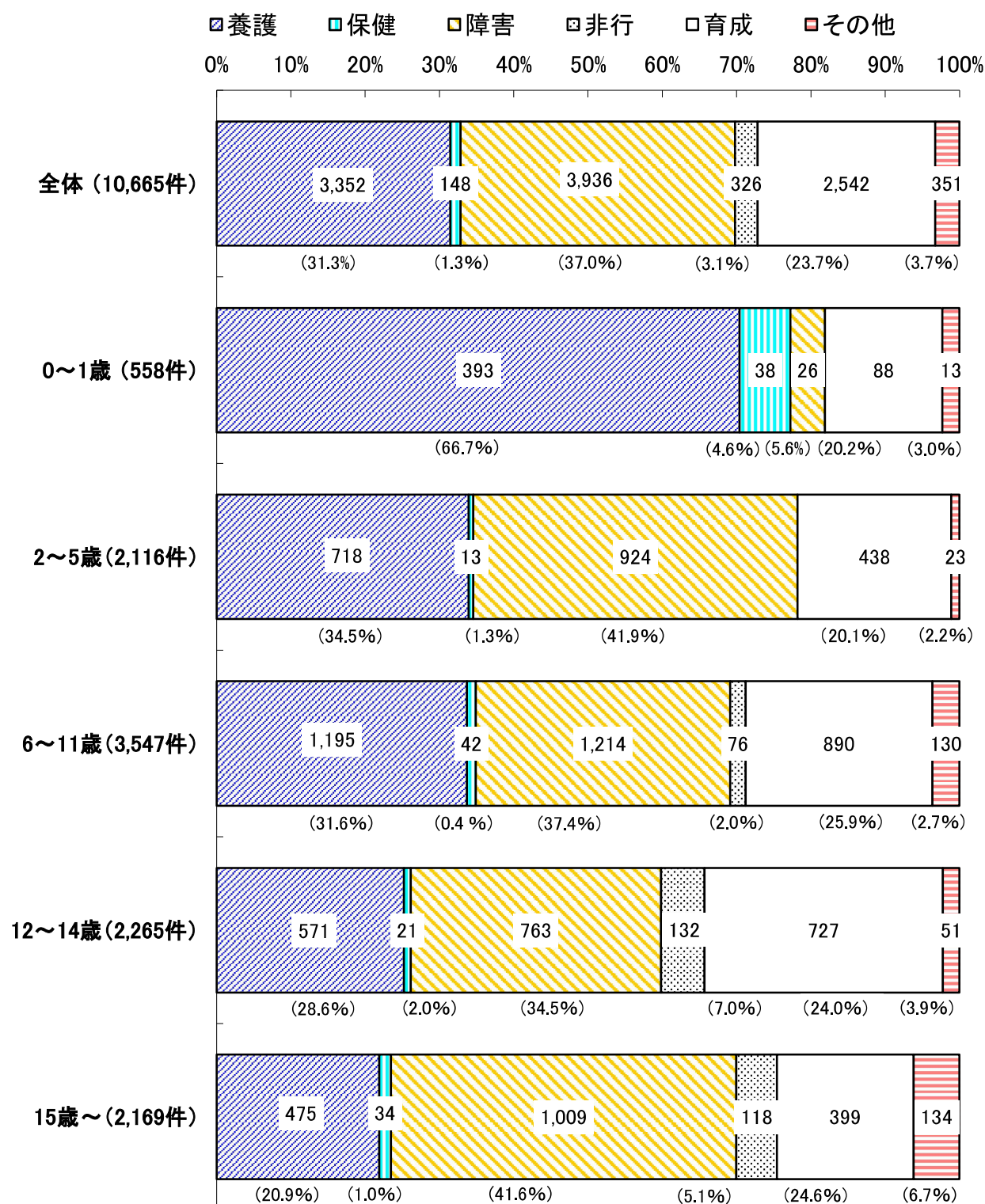
[統計資料:表2参照]



(3) 年齢別受理状況

児童相談所が令和6年度に受理した相談件数について、児童の年齢層別に相談内容別構成割合を示したものが下図である。この図に見るように、各年齢層によって相談内容の構成割合が異なる。例えば、0～1歳は、養護相談(虐待相談を含む)が約7割を占め、保健相談の割合も他の年齢層に比べて高い。2～5歳以上は障害相談の割合が高くなり、また、12歳以降においては非行相談の割合が高くなっている。

図3 年齢別の相談内容別構成割合



(4) 虐待相談

令和6年度の虐待相談は、前年度比71件(+4.1%)増の1,809件となり、令和元年度の相談件数と同水準になっている。

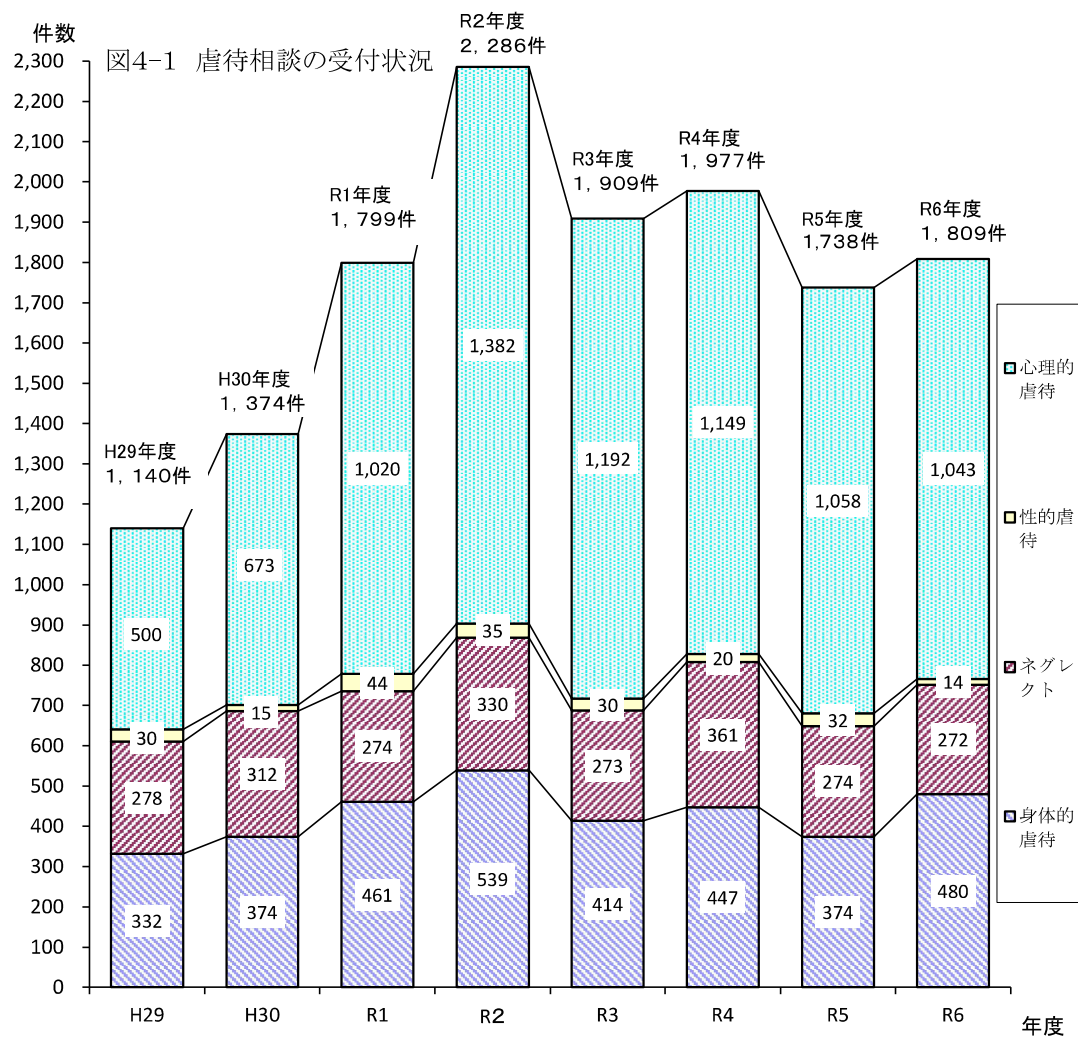


図4-2 虐待相談の経路(令和6年度:1,809件)

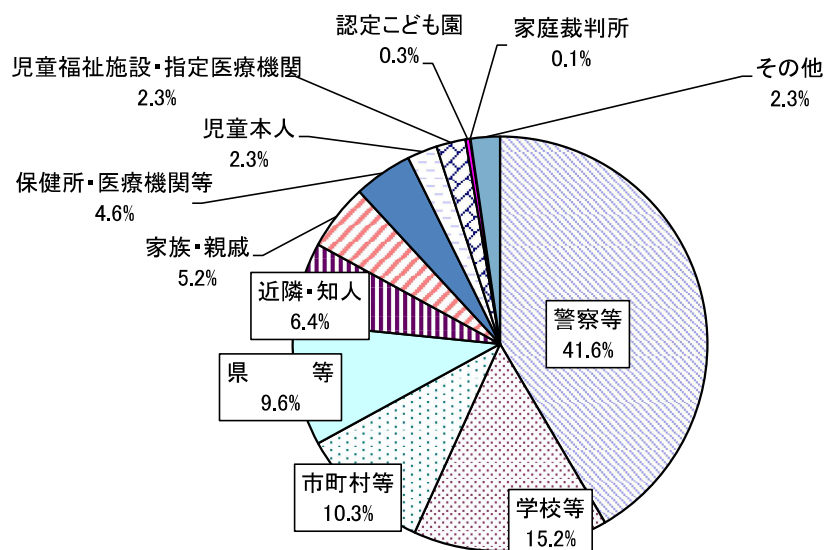


図4-3 虐待種別・年齢別状況

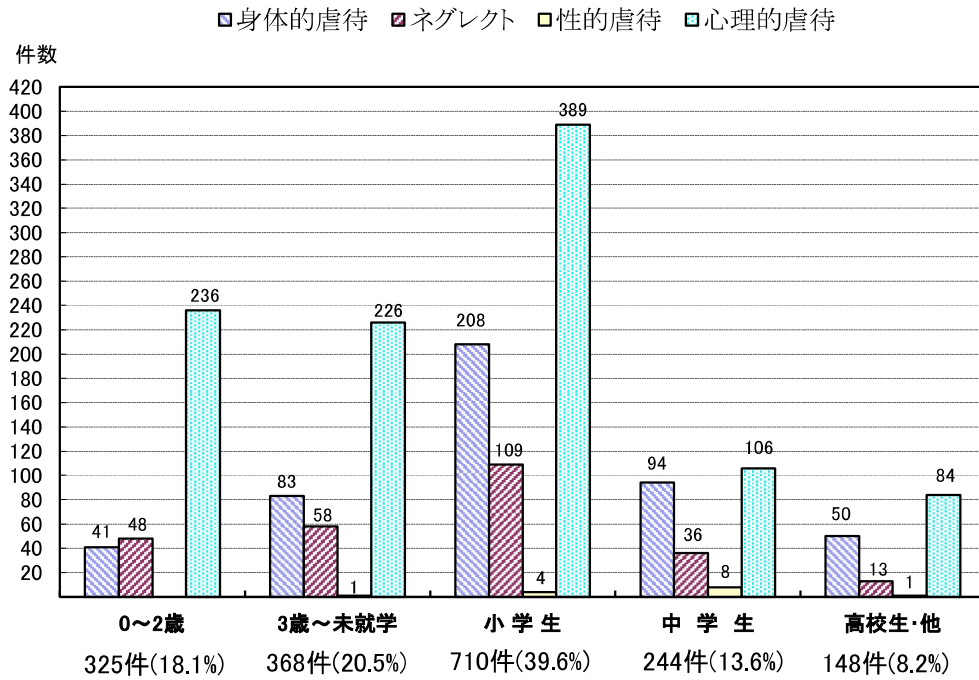


図4-4 主な虐待者

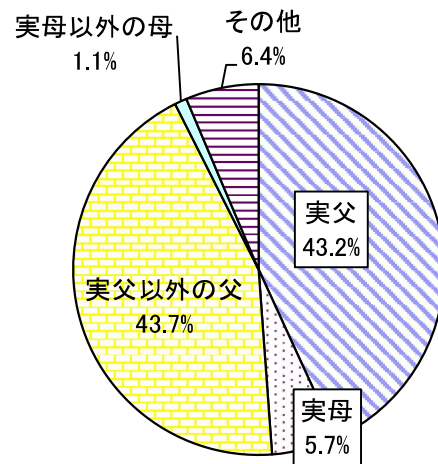


図4-5 援助の状況

